



セージ

119 編は (アルファベットによる詩) と但し書きがあり、原典は**同じ字母で始まる8節の段落が22のアルファベット順に続く**詩編です。日本語訳ではヘブライ語のアルファベットを捕らえられません。

冒頭に **いかに幸いなことでしょう／まったき道を踏み、主の律法に歩む人は。(1)** とあり、律法を守ることを勧める教訓詩です。詩人たちが律法に真剣に、深く向き合うことで、苦しみや挫折も味わう闘いとなったこと、それと同時に彼らの喜び、生き甲斐であったことを知らされます。

文字			イメージとなる聖句
18	פ	ツァデ	あなたは正しく／恵みの御業はとこしえに正しく／あなたの定めはとこしえに正しい／私は若く、侮られて／苦難と苦悩が私にふりかかって／私に理解させ
詩人は若者で、 わたしの熱情は私を滅ぼすほど(139) というほど、燃えるような信仰を持っています。神の義に頼り、正義感に燃え、戒めを喜ぶだけでなく、理解したいという謙虚さもあります。			
19	ק	コフ	呼び求めます／答えてください／夜明けに先立ち、助けを求めて／わたしの目は夜警に先立ち／私の声を聞き／あなたの戒めはすべて真実です
詩人はひたすら主を呼び求め、助けを求め、祈りを捧げる人です。夜明けよりも早く起きて祈り、主の助けを求めて夜警よりも目を凝らしているといいます。戒めは真実だと悟っているからです。			
20	ק	レシュ	わたしの苦しみを顧みて助け／わたしに代わって争い、わたしを贖い／神に逆らう者に救いは遠い。あなたの掟を尋ね求めないからです
詩人は迫害を受け、苦しんでいます。神に逆らう者、欺く者が力を振るい、それを忌むべきものと思いつつ、対抗するすべがありません。神が代わりに闘い、裁き、詩人を助け出すよう願います。			
21	ג	シン	地位ある人々が理由もなしに迫害／わたしの心が恐れるのはあなたの御言葉だけです／日に七たび…賛美し／あなたの律法・戒め・定め・命令を守っています
詩人は地位ある人々が恐怖の支配をしていると言いますが、真に恐れるべきは御言葉だと言います。律法は豊かな平和を与え、つまづきにはならないと言います。律法を愛し、守り、実行し、日に7度賛美し、神の前に偽らず、 わたしの道はすべて御前にある通りです(168) と告白します。			
22	ו	タウ	御言葉のあるがまま理解させてください／わたしの唇／わたしの舌／わたしの魂が…賛美します／わたしが小羊のように失われ、迷うときどうか…探してください
詩人は第一に 御言葉のあるがまま理解させてください と叫び求めています。自分自身で律法を理解し、解釈し、伝えるのではなく、神の御旨のままに理解し、伝えたいと願います。その時、賛美がほとばしるのです。最後の 176 節は主イエスの「迷い出た羊」のたとえを思い起こさせます。			

『讚美歌 21』は<ツァデ>から<タウ>では詞・讚美歌改訂委員会 曲・高浪晋一による答唱 154 と、8「心の底より」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-06-22> をあげています。ドイツプロテスタントの一介の兵士ゲオルグ・ニーゲ(1525-88)が、ルターの讚美歌に触発されて、作詞したもので、古いドイツ民謡に乗せて賛美したものです。ジュネーブ詩編歌は軽やかなリコーダーの加わった演奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=Frz2g6qxFUw&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=119>